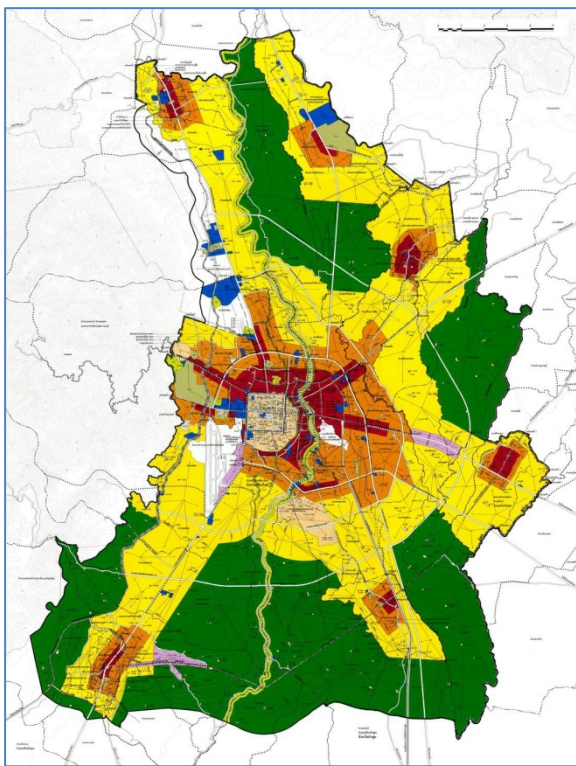


## タイ国チェンマイの景観運動

上嶋 晴久 (社団法人 奈良まちづくりセンター副理事長)



チェンマイ都市総合計画第3次改定、土地利用計画図



チェンマイの神奈備、ドイステープ寺院



ピン川コンクリート堤防反対運動

チェンマイは約700年前よりランナー・タイ王国の建設から始まる歴史と伝統文化を有する古都であるが、近年は都市の膨張が加速的に増し、多くの自然環境や景観破壊が進みつつある。

チェンマイは奈良と同じく生き続ける歴史都市であり、ランナー文化を背景に地域性豊かな風景・景観とチェンマイらしさを感じ取れるまちづくりが必要とされている。都市計画マスタープランである都市総合計画に加え、景観と言う視点に立った上で歴史文化観光都市チェンマイのあり方を考え、保全と創造を行うことが不可欠な時代になって来たと言える。

そのような背景とタイ国からの要請により2006年3月より2年間、JICA シニアボランティアの立場で私自身は景観保存の指導を職務として、国の出先機関であるチェンマイ土木・都市計画事務所に赴任し、主に奈良の景観によるまちづくり事例の紹介と、景観情報の把握として「チェンマイ景観データベースの構築」や、広域的な地域景観の方向性を示す指針としての「チェンマイ都市景観ガイドプランの策定」等の提案を活動とした。(詳細報告は下記 URL)

[http://www1.kcn.ne.jp/~hull/profile/jica/jica\\_top.htm](http://www1.kcn.ne.jp/~hull/profile/jica/jica_top.htm)

現在のタイ国は中央政府の権限や役割の一部

を地方自治体への委譲が進められており、日本の都市計画マスタープランに相当する都市総合計画も各テサバン(市)が独自に策定出来るようにスケジュールが組まれている。また、民主化の進展と共に地域住民(市民)の意見の取込みも明文化され、円滑なシステムが課題となっている。

地方分権化と民主化進展のに加え政情不安の狭間に揺れているのは招致のところである。

景観問題に対する地域住民の運動も活発化している。例えば、ピン川のコンクリート堤防の嵩上げ工事反対運動は1000人近くの一般市民の参加によるチャリティコンサートやデモ行進があり、ドイステープ山麓のワットウモン地区住民による高層 condominium 反対と高さ規制の要望の県庁陳情デモ、ワットケート住民により土地利用計画について高密度居住地区からタイ伝統文化芸術保護奨励地区への変更要望等、本来あるべきチェンマイの風景・景観をあんじ、危惧を持った地域住民達が地域と違和感を感じる法制度や政府事業に対する意見を自主的でダイナミックな運動活動として展開している。

奈良においても市民レベルでの景観意識の底上げと共に「大和の風景・景観を守り育てる運動」を熟考し、盛り上げる方策の継続が必要である。